

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表日：2022年3月29日

事業所名：一関市かるがも教室

		チェック項目	はい	どちらとも言いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			定員に対し、適切なスペースを確保しています。
	2	職員の配置数は適切であるか		○		配置基準に基づいた職員を配置しています。職員の休暇時に関しても調整を行いながら配置基準に合致した職員数を確保していますが、職員募集への応募がなかったことから、長期休暇への人員補充は結果として行うことができませんでした。1グループあたりの在籍人数の調整を含め、安全確保が可能な人数で運営（職員配置）を行いました。職員の休暇時にも十分に対応できるよう、今後も職員配置等の適正数維持に努めます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			イラストや写真を掲示するなど、お子様がわかりやすいよう視覚支援を行っています。また障がい特性に応じてパーテーションを活用し集中しやすいようにするなど、適宜環境調整を行っています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			毎日事業所内の清掃を行い、清潔保持に努めています。また活動内容やお子様に合わせて過ごしやすい環境整備をその都度行っています。今年度は新型コロナウイルス感染症防止策として、活動中の換気や、玩具・施設内の消毒等を徹底しています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			活動内容の設定、活動後のカンファレンス等を職員全員で行っています。また、定期的なミーティングを開催し、目標設定や評価を行うなど業務改善等に努めています。月に一度は一関市かるがも千厩教室との合同会議を開催し、改善点や反省点を報告しあうなどして適宜業務改善を行っています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			保護者向け評価表による事業所評価を実施し、業務改善に努めています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			今年度も例年に引き続き、ホームページ等で評価結果を公表します（3月下旬予定）。保護者から頂戴したご意見をもとに、今後も業務改善に努めます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			第三者による外部評価は行っておりませんが、特別支援学校教諭など専門家に実際の活動内容に立ち会っていただき、指導方法や支援方法に関する助言を頂いています。外部評価についても、今後の実施を検討します。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			オンライン研修を含む外部研修に参加するほか、内部研修の場を設けて研修機会を確保しています。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○			保護者からの聞き取りなどにより、お子様一人一人の特性や興味関心、状況に合わせたアセスメントやモニタリングを行い、児童発達支援計画を作成しています。指導員間で話し合いの場を設け、支援計画の内容が適切であるかを適宜確認しております。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			概ね事業所内で統一したアセスメントツールを活用しています。今後も適正な状況把握のため、アセスメントツールの標準化を図ります。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			個々の特性に応じた支援内容を盛り込み、関係機関との連携に努めています。今後もガイドラインを考慮しながら適切な支援内容を設定できるように努めます。また、児童発達支援ガイドラインの内容については、今後も職員間で共有しながら、理解を深めていきます。

		チェック項目	はい	どちらとも 言えない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			児童発達支援計画に則った支援内容をその都度検討しており、お子様一人ひとりの状態や特性に合わせ職員間で協議しながら指導を工夫しています。また、保護者との共通理解を図りながら支援を行うよう努めています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			お子様一人ひとりの状態や特性に合わせ、職員間で協議し行っています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			季節感のある活動を取り入れ、お子様の特性やその日の状況を加味しながら、主体的に取り組める内容を工夫しています。お子様の出席状況も考慮しながら、プログラムが適切か検討しています。今後活動の事前準備を含め、より効果的な活動プログラム設定に努めます。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	○			お子様の状況に応じて、個別療育、小集団療育を組み合わせしており、個別療育、小集団療育両方の活動に対応した児童発達支援計画を作成しています。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			支援内容や役割分担の確認のため事前打ち合わせを毎回実施し、職員間での情報共有や共通理解を行ったうえで支援に臨んでいます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			活動終了後のカンファレンスを毎回行い、支援が適切であったかの振り返りを行っています。反省点や支援の有効性などを指導員間で共有し、活動内容の改善に努めています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			お子様や保護者に対する支援内容や状態等の記録の徹底を図り、指導内容や方法の検証に努めています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			定期的に保護者とモニタリングを行い、支援計画の見直しの要否を判断しています。見直しに際しては指導員間で情報を共有しながら、支援計画が適切であるかを確認しています。
関係機関や保護者	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			担当指導員がサービス担当者会議に参画しているほか、必要に応じて他の職員が参画しています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			関係機関と連携し、お子様の情報共有などを行いながら必要な支援を行えるようにしています。また年に一度母子保健担当者（担当保健師）や相談支援事業所相談員などを参集して会議を開催しています。
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○			保健や障害福祉、保育等の関係機関と連携した支援に努めています。医療との連携については不十分であるため、今後改善を図ります。
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか			○	主治医からの指示や支援にあたって必要な情報、かかりつけ医療機関等に関する情報は保護者を通じて確認しています。医療機関との直接的な連絡体制については整備不十分のため、今後連絡体制の整備について検討します。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			職員が関係機関を訪問するなどして、情報共有と相互理解に努めています。また、必要に応じて支援者会議を行っています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			文書による情報提供や会議への出席などにより、情報共有と相互理解を図っています。必要に応じて小学校等の担当者との引き継ぎの場を設け、情報共有を行うなど、適宜対応しています。

	チェック項目	はい	どちらとも言えない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
君との連携	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			特別支援学校の地域支援事業により、支援内容等に関する助言を受けています。例年発達障害者支援センター等から助言および研修を受けていますが、昨年度同様新型コロナウイルス感染症の影響により機会を設けることができませんでした。今後新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、可能な限り連携を図ります。 他児童発達支援事業所については、お様が併用通所する場合のみ連携していますが、それ以外の連携については今後検討します。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○			就園しているお子様が大半です。未就園で重度の障害を持っているお子様を対象に、近隣の保育園事業に同行しているため、参加されたお子様は年に数回交流する機会があります。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			担当職員が参加し、内容の情報共有を図っています。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡シートの記入や活動後のフィードバックにより、共通理解に努めています。体調不良等により欠席が続いているお子様には、電話などで情報共有ができるよう努めています。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○			活動後にフィードバックを行い、療育で実施している内容や声かけ、関わり方についての助言を行っています。また、必要に応じて子育て支援センター主催のペアレントトレーニングへの参加を促すなど、家族支援を行っています。事業所内でもお子様の障がい特性等を考慮しながら、一部のグループでペアレントトレーニングを実施しました。今後はペアレントトレーニングの実施拡大も含めた更なる家族支援を検討します。
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			児童発達支援の提供開始にあたり、契約書及び重要事項説明書の内容について丁寧に説明しています。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			保護者の希望や要望、発達評価や発達検査の結果等を総合的に捉え、児童発達支援計画を作成しています。又、保護者への説明を行い、同意を得ています。今後も、より丁寧な説明を心掛けます。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			活動後のフィードバック時のほか、必要に応じて相談に応じる体制を整備し、関係機関の協力を得ながら支援提供に努めています。より丁寧な説明を心掛け、必要に応じて子育て支援センターの臨床心理士、保健師等と連携しながら対応します。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			今年度は新型コロナウイルス感染症の同行を注視しつつ、ペアレントトレーニングを含めて2回保護者同士の交流の場を設けました。来年度より多くの保護者が参加できるよう、保護者の希望も伺いながらよりよい内容となるよう検討します。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			活動後のフィードバックや、随時相談に応じる体制を整備し、必要に応じて関係機関の協力を得ながら支援提供に努めています。引き続き、迅速かつ適切な対応を心掛けます。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月のおたよりや、親だよりの発行を行っています。
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			随時、職員間での個人情報の取り扱いについて注意喚起を行っています。
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			マカトンサインや写真、絵カード等を用い個別に支援を行っています。必要に応じて書面で提供するなどの配慮を行っています。引き続き個々の状況に応じた配慮を行います。

		チェック項目	はい	どちらとも 言えない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	地域住民を招待する行事等を行っておりません。事業所に関する周知などは、保護者の希望も踏まえ今後の対応を検討します。
非常時等の 対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			緊急時の避難訓練を年2回程度実施しており、そのうち1グループに訓練への参加をお願いしております。訓練実施の様子がわかりづらいとご意見を頂戴することが多いため、周知方法などについて今後も引き続き検討します。またマニュアルの周知については不十分のため、周知方法等について検討します。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			避難訓練については年2回程度実施しており、そのうちの1回は児童と保護者に参加をお願いしています。年間計画に標記しながら一緒に訓練に取り組んでいますが、保健センター全体での避難訓練も含めて職員のみでの訓練が多いため、保護者への十分な周知について方法を引き続き検討します。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			児童調査票を通じて、服薬やアレルギーの有無等の情報収集を行い、職員間で情報共有しています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか			○	児童調査票に服薬やアレルギーの有無等についての記入欄を設け、情報収集を行って職員間で内容を共有しています。現在は医師の指示書に基づく対応が必要なお子様がいないため、必要なお子様が入所した際は検討します。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			ヒヤリハット事例集を作成し、職員間で報告会を開催し情報共有や再発防止策を協議しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			研修を実施して虐待防止対応に関する知識を深めるほか、対応について職員間で確認しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			身体拘束について組織的に協議を重ね決定しています。切迫性、非代替性、一時性を確認しやむを得ず一時的に身体拘束が必要と判断した際は、支援計画への記載、家族への説明および同意を得たうえで行うこととし、必要事項の記録を行うことにしています。また、身体拘束については契約時に保護者への説明をしています。